

I 大葉性, II 区域性, III 非定型性, IV 気管支性, V 中心性, VI 粟粒性, VII 焦点性にわけ, 随伴症候として, a 囊胞形成, b 膿瘍形成, c 膿胸形成, d 肋膜炎形成, をあげた。34年度はVIが81.0%で大部分であり随伴症候は4.1%にすぎない。35年度はI 25.8%, II 6.8%, III 3.5%, IV 43.1%, V 3.5%, IV 6.8%, VII 10.4%と種々の像をみせ, 又 a 3例, b 1例, c 2例, d 11例と29.3%の多数の随伴症候をみた。明かに両者に違いをみとめた。陰影の広さによる分類も同様の差をみせた。レ線所見と症状では明かな関係をみなかつた。死亡率は34年度6.3%, 35年度13.6%であり, 本年度の方が重症例が多かつた。且抗生物質に無効の例が多く, 一部培養でブ菌を証明した。

追加 橋本五郎(群馬中央)

数年前に両側粟粒性肺炎を経験いたしました, 此はT. B. との鑑別に注意を要すると思います。

25) 未熟児の統計的観察(第2報)

新田武雄, 斎藤三夫, 井口正己
久保田愛子, 牧野忠夫(葛飾日赤)

昭和28年より34年迄の6年間, 560例の未熟児について, 今回は生存者のみを対照として得た二三の知見について述べる。

生下時体重に回復するまでの日数は体重の小さい者, 飢餓時間の長いもの程遅延している。黄疸については, 2kg以下では平均10日で消失している。強度の黄疸では, カチーフ, グロンサン等を用いている。カチーフについては核黄疸の問題もあるが, 大体二週以内に黄疸は消えている。体重上昇を, プレミルク使用群と牛乳使用群についてみると, 体重上昇は, プレミルクに於て, やゝ早期に上昇がみられる。上昇開始は, 一週から10日前後で, プロキロ熱量, 100 Cal. 水120 cc, 脂肪1.5~3g, 蛋白質3~6gに於いて認められた。又, プロキロ熱量150 Cal になると体重上昇は急速となるようである。

26) 最近経験せるリウマチ熱8例に就いて

佐藤常人(土浦市)

高津教授の診断基準に従つて, 本年2月より9月迄にリウマチ熱と診断し加療せる8例に就いて報告する。即ち第1例は発熱, 関節痛, 小結節, 第2例は発熱, 小舞蹈病, 第3例は発熱, 輪状紅斑, 関節痛, 第4例は持続せる微熱と腹痛, 第5例は発熱,

心炎(心雑音, E・K・G変化), 第6, 第7, 第8例は各々発熱のみを主訴とせる症例である。

全例にペニシリンゾル60万注を10日乃至15日間施行し, 発熱, 機嫌, 食欲, 体重等は劇的に好転を示し, 心炎の症候著しい例には, 副腎皮質ホルモン(デカドロン)を投与し, X線上, E・K・G上速やかに好転を認めた。

リウマチ熱の活動性が存在する間は, 絶体安静の必要な事は勿論であるが, 活動性の減退或は消失を知るには, 是非C・R・P, ASL-Oの検査の必要性を痛感した。

27) 小児急性横断性脊髄炎の1治験例

岡田宏一(頸南病院)

12才3月の女兒。他の疾患に随伴又は続発することなく, 両下肢の運動麻痺より次第に両側性の上行性麻痺を示し, 第4脳髄断区以下の高度の運動麻痺, 知覚麻痺, 膀胱直腸障害, 自律神経障害, 反射機能障害を来し, 定型的な横断性脊髄炎の病像を示した症例に, 病初抗生物質の投与を行うと共に, V. B₁, V. B₁₂, ATPの混合筋注(総計V. B₁ 640 mg, V. B₁₂ 6400 γ, ATP 640 mg)とV. B₁とグルシンの髄腔内注入(総計V. B₁ 320 mg, グルシン923 mg)及びパンピング, プレドニソロンの投与, 低周波, マッサージ等を併用して25日後には伝ひ歩きが可能となり, 3ヵ月後には略々完全に治癒せしめ得た経験に就て報告した。

28) Subsepsis allergica (Wissler) の臨床観察

石井誠一, 上原すゝ子(千葉大)

症例1は11才6月の女兒, 症例2は2年1月の男児で, 両例共, 弛張熱, 発疹を主訴として来院した。本2例共通の臨床症状を挙げると, 1) 長期間弛張熱が持続し, 2) 何れも脾臓の腫大が認められず, 3) 血液所見で著明な好中球増多並びに核左方移動を認め且好酸球の消失せざりし事, 4) 再三の血液培養にも拘らず細菌を証明し得ず, 5) その疾病経過中に蕁麻疹, 麻疹, 風疹様発疹が出没し, 6) 一過性の関節痛があり, 又 7) リンパ腺腫大を認め, 8) 心電図上心筋障害の所見があり, 9) 諸抗生剤が殆んど無効と思われ, 10) A. S. L. O. 値は終始上昇せず, 11) 副腎皮質ホルモンが卓効を呈した。

以上の如くその臨床経過はSubsepsis allergica Wisslerに酷似せるものと考えられた。